



博士課程学生によるショートプレゼンテーション(一橋講堂)



橋本JST理事長

博士人材を巡っては、国内の博士号取得者数が伸び悩む中、文科省が昨年、博士人材活躍プランを策定。40



武部文科副大臣

博士人材を巡っては、国内の博士号取得者数が伸び悩む中、文科省が昨年、博士人材活躍プランを策定。40

「未来の博士フェス」開催
文部科学省は9月4日、「未来の博士フェス2025」を都内の学術総合センターで開催した。科学技術振興機構(JST)との共催。今年で3回目の開催となる未来の博士フェスは、企業と協力して博士課程学生を応援するイベントで、当日は、博士課程学生によるショートプレゼンテーションやポスターセッションなどが行われた。

武部文科副大臣が挨拶

開催

学生がショートプレゼン

年までに人口当たりの博士号取得者数を世界トップレベルに引き上げる目標(2020年度比約3倍)を掲げている。

開会にあたり、武部新文科副大臣が挨拶し、「我が国の持続的な発展のためには、高度な専門性をもち、優れた洞察力により課題を発見し、関係者と協働してその解決を図ることが出来る博士人材が一層重要となる。文科省としては、様々な施策で博士人材の活躍を力強く後押ししていく」「本イベントが、知の挑戦者たる博士が日本の未来を拓くという潮流を加速するとともに、新たな学びや出会いを得る場となることを期待する」と語った。

また、JSTの橋本和仁理事長が「研究者にとって何が重要かというと、ネットワークだ。自分がやっていることを自分の中で閉じず、研究者仲間と広げていき、産業界、そして世界のネットワークにつなげていくこと。これが非常に重要で、良い仕事をしてネットワークに入っていければ、皆さんの将来を確実に広げる。このフェスは皆さんにとって良い機会となる。ぜひいろんな方とネットワークを作ってもらいたい」と述べた。

続いて、加藤明良経済産業大臣政務官、渡海紀三朗衆議院議員、有村治子参議院議員、大野敬太郎衆議院議員より来賓挨拶が述べられた。

ショートプレゼンでは、JSTのSPRING事業(次世代研究者挑戦的研究プログラム)の支援を受ける博士課程学生らが自らの研究内容等を紹介。コメンテーターは産業界やアカデミア関係者が務め、各プレゼン後は活発な意見交換が行われた。

そのほか、学生によるポスターセッションでは、学生同士や、学生と企業担当者の議論が白熱する様子も見られ、一日を通して、博士課程学生が「主役」のイベントとなった。



有村参院議員



加藤経産政務官



大野衆院議員



渡海衆院議員